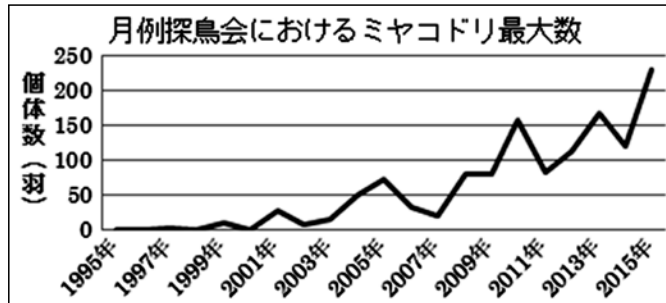


東京湾のミヤコドリ・1 東京都江戸川区・葛西

鈴木 弘行

1. 葛西への飛来状況

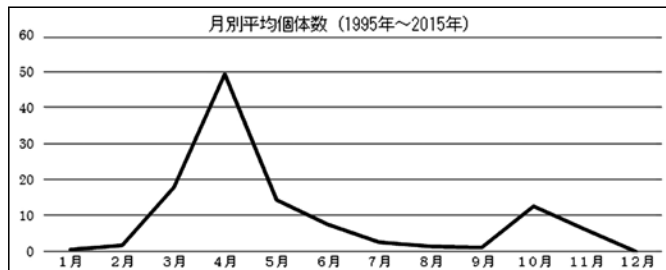
葛西では1980年代はごく稀に観察される程度でしたが、1990年代になり記録は増えました。継続して観察されるようになったのは、三番瀬で初めて越冬が確認された1992年以降で、私は1992年10月6日に葛西海浜公園の東なぎさで2羽を観察しました。1995年以降は月例探鳥会が開催されるようになったので、定期的な記録が残っています。月例探鳥会で観察された葛西での最大数を表にしたものが下のグラフ・1です。葛西での最大数は、2015年4月26日の230羽でした。



〔グラフ・1〕

2. 観察される時期

ミヤコドリは冬鳥として飛来しますが、少数が超夏し、6月～8月にも少数の個体が観察されています。超夏個体は若い個体がほとんどのようです。1995年から2015年の月例探鳥会での月毎の平均個体数を見ると、グラフ・2のようになります。葛西で観察される個体数がピークとなるのは4月です。この時期の三番瀬は、潮干狩りを楽しむ人が大変多く、ミヤコドリにとっては脅威となるため、人の立ち入りが出来ない葛西の東なぎさに、避難的に飛来することや、渡りの時期でもあるので、そのための移動ということが考えられます。次に多いのが10月となり、同様の理由が推測されます。



〔グラフ・2〕



マテガイを捕食するミヤコドリ

3. 観察される場所や行動について

葛西では主に、立ち入り禁止となっている葛西海浜公園東なぎさで観察されます。また、東なぎさの東側、旧江戸川の河口に干潮時に出現するカキ礁にもよく飛来します。人出が少ない時には、西なぎさで観察されることもあります。葛西では、干潟やカキ礁で主に採餌しています。西なぎさでの至近距離の観察で、マテガイを捕食するのを見ました。